

## 八峰町の地名の由来

前回に引き続き、八峰町の地名の由来を紹介していきます。

## ● 沢目

沢目という地名は、現在は住所としては使われていませんが、JR 沢目駅や沢目子ども園などの名称に使われています。



JR 沢目駅

かつての沢目村は、明治22年（1889）の町村制施行の際に水沢、目名瀉、沼田、高野野、田中の集落が合併してできた村です。沢目村の由来は、水「沢」と「目」名瀉から一文字ずつとった合成地名でした。その後、昭和30年（1955）に沢目村と埴川村が合併して峰浜村が誕生しています。

## 再認定現地審査を開催

八峰白神ジオパークの再認定現地審査が11月1日～4日の日程で行われました。4日間の中で審査員は、前回指摘された課題に対しての進捗状況を確認しました。また「旧春秋林道」や「白瀑神社」などのジオサイトを視察しました。審査員は白神山地を伝えるガイド等を評価する一方で、ストーリーや運営体制についての課題を指摘しました。正式な審査結果は来年の1月18日に公表されます。



鹿の浦展望台でガイドが審査員を案内する様子

## ● 審査について

審査は日頃の活動を点検し、ジオパークの質を高めるため4年に一度行われています。当ジ

オパークでは2年前にも審査が行われ「条件付き再認定」となりました。その後、アクションプランを作成し課題の解消に向けて2年間取り組んできました。今回の審査では2年間の活動と今後4年間の展望が評価されることとなります。指摘事項に対して達成度が低いと判断されれば、日本ジオパークの認定が取り消されることもあります。

## ● 今後の課題

審査はジオパーク関係者への聞き取りを中心に行われ、4日目には審査員からの講評を行いました。講評では、前回指摘された12の課題について、「ジオサイトの見直し、拠点施設の整備、防災への取り組み等についてはある程度進捗が見られた」としつつも「この地域のストーリーや協議会の運営体制については不十分」と指摘しました。

また、ツーリズムは「地域に素晴らしい素材があるが、観光協会等との連携を推進して、自分たちが何を売り込みたいのかを設定する必要がある」としました。



他の6つのジオパークからも職員が視察に来ました

## ● ストーリーについて

ストーリーについては「郷土の自慢できるところ、伝えたいことをぜひみんなまで話し合っってストーリーを作ってほしい。地域の人、事務局、運営委員会がそれぞれ話し合い、またお互いの情報を交換する必要がある」と提起しました。

今後は、いかに地域の人の意見をくみ上げてストーリーを作りに上げていくかが大きな課題です。

八峰白神ジオパーク推進協議会

地域おこし協力隊 三輪 拓磨

〒018-2632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一

TEL 0185-7713086